

2006 年度

科目名 古文書学	対象学科・学年 文学部日文3回生	担当者 山中 浩之
授業テーマ 古文書を通して歴史を読む		
授業の概要と目標 私たちは日々文書を作成し授受している。何のためか。私たちの意志を特定の人や機関に伝達し、それに対する相手の反応や応答に期待し、そのことを通して何らかの問題を解決し新たな社会的関係を築いていくためである。昔も今も人々はそのようにして文書を作成し授受してきた。しかしその際、誰が誰に対して書くか、また時代の社会関係によって、その作成の仕方や書体が異なっていた。古文書を通してその違いを見ることは時代における人と人の関係の仕方や生き方を知ることでもある。大は国家との関係から、小は家族との交流に及ぶ。しかしまず古文書を読む面白さを知ってほしい。		
評価方法 平常点を重視し、試験・レポートを加えて総合的に評価		
テキスト 『くずし字解読辞典』	著者	出版社 東京堂
参考書 『概説古文書学近世編』、『演習古文書選 近世編』、『暮らしの中の古文書』	著者	出版社 吉川弘文館
授業スケジュール・内容 1. .古文書に触れる（和紙とは、墨とは） 2. 古文書の形態と種類（どのように紙を切り、どのように折り、どのようにつづったか） 3. 古文書の扱い方（どのように開き、めくり、とじるか、どう保存するか） 4. 古文書の文体になれる（声に出して読む。当時の人の書く呼吸を知る） 5. 慣用的表現になれる 6. くずし字解読辞典の使い方 7. 変体かなになれる。（往来ものをよむ） 8. .同上 9. 同上（生活日用書類を読む。重宝記類を中心に） 10. 同上 11. .漢字のくずし字になれる。（干支、数字、方角、） 12. .同上（人名を中心に） 13. 同上（度量衡と貨幣） 14. 証書類を読む（離縁状、借用証文、往来手形、奉公人請状など） 15.. 同上		